

流行は移り変わるが、スタイルは永遠である

角 田 健 一 (大 塚)

TSUNODA Ken'ichi (Tajio)

二〇二三年十一月、新国立美術館に足を運んだ。目的はもちろん、第十回日展の参観である。乃木坂駅から目的の会場へ向かう左手に、企画展「イヴ・サンローラン展 時を超えるスタイル」の会場が目に入った。時間の余裕もあったことから踵を返しチケットを購入、そのまま参観した。

イヴ・サンローランは弱冠二十一歳でデオールの主任デザイナーに、二十六歳でデオールを退社、自身のメゾンを持った。若くして活躍するデザイナーだった。独立後サンローランを一躍世界で有名にしたのは「モンドリアン・ルック」である。オランダの抽象画家ピエト・モンドリアンの作品に着想を得てデザインされたものである。特に影響を受けたと言われるのは「コンポジション」シリーズで、水平および垂直の直線、色ブロック、四角形などの基本的な要素を組み合わせたもの。グリッドによる平面的な構成と基本色の使用が特徴となっている。初めてファッションとアートの融合を

果たした例として有名である。撮影許可のある場所にこの「モンドリアン・ルック」のドレスがあったので思わず撮影してしばし鑑賞した。

モンドリアンは、基本的な幾何学的形状と色彩を用いた抽象芸術を追求したわけだが、イヴ・サンローランのモンドリアン・ルックを眺めていると、もう一人、同時代に生きたロシアの抽象芸術家カジミール・マレーヴィチが頭に浮かんだ。彼の代表作の一つに「黒の正方形（ブラック・スクエア）」がある。真っ黒な正方形のキャンバスに描かれた、単純で幾何学的な作品である。真っ黒な正方形がキャンバス全体を占め、意味や図像性を排除した抽象的な表現とされる。三年後には「白の上の白の正方形」も発表。白く塗ったキャンバスに傾けられた白い正方形が描かれた作品である。マレーヴィチの何かを描かない、意味を排除するということが、白と黒で表現されるのだなど、当たり前といえそうですが、白と黒で表

ぜか心が強烈に残っていて、ほんやりと書とのシンパシーを抱いていた。現在は別として、当時はこの絵画の本質を理解されないことが多かったようだ。そしてそのバックグラウンドを知らなければ現代の私たちも理解できないことが多いだろう。

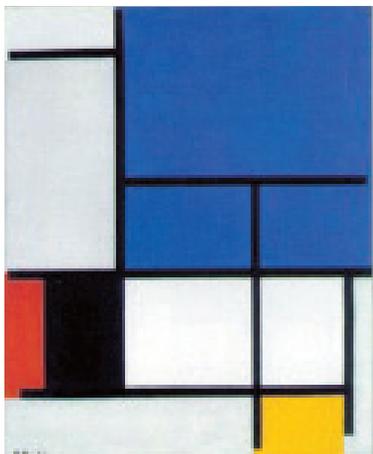
それまでの古典的な絵画といえど対象をいかに正確に描くかが基本であった。一方で、写真や映画が生まれたことで絵画としてのあり方、つまり絵画性について考えざるを得なかった状況がよくわかる。生まれるべくして生まれた表現だったとも言えるのかもしれない。しかしこの時代、ポール・セザンヌやバプロ・ピカソといった画家ですら、対象の残存がある中で、行きすぎた表現と評価されることもあるが、いずれにしても極めて印象的で抽象的である。

近年よく囁かれるAIブーム。デジタル技術の進化により、書道や筆文字の作成や表現がデジタルで行われるようになり、タブレットや専用のデジタルペンを使用することで、書道家やアーティストは伝統的な筆や墨を使うのと同様の感覚でデジタル文字を書くことができる。またAIを使った文字の書き方の指導、文字の正確な形状やバランスのチェックなども可能となり、3Dプリントを用いて篆刻の複製、立体的な文字表現も可能だろう。インターネットやソーシャルメディアによって世界中の人々と交流できる。そしてNFT (Non-Fungible Token) アートで、ブロックチェーン技術を使用して作成されたデジタルアート作品の所有権を示し販売もできる。近

い未来にこういった新たな技術が世の中を席卷するに違いない。私たちは加速的に進むこの時代の進化に書をどのような「かたち」で伝統と文化を継承し、発展させ、残していくかが問われている。

マレーヴィチは「黒の正方形」を、当時の遷り変わる時代の中で、芸術の新たな方向性として示した。彼は「超幾何学」という芸術哲学を掲げ、「黒の正方形」を含む一連の作品を通じて新たな芸術を追求した。これは芸術における新たな表現方法や思考の転換を象徴し、その単純な形状と色彩の背後にある深い芸術的な哲学と意味を示唆している。

拙作は「黒の正方形」をきっかけに正方形という紙面で制作した作品。今は正方形という形式以外何も共通点を持たない。書の制作では絵画からのインプレッションやフィードバックをダイレクトに反映するわけではないが、いつか、どこかで、それら名画の内在的な美や哲学がこれからの作品に何かを添えてくれるかもしれない。今はただ、絵画を鑑賞することが好きなのである。「流行は移り変わるが、スタイルは永遠である」とはイヴ・サンローラン展の最初の部屋に掲げられていた彼の言葉。流行は時代と共にあり、今に生きる自身が表現できる作品を追求していかねばならない。

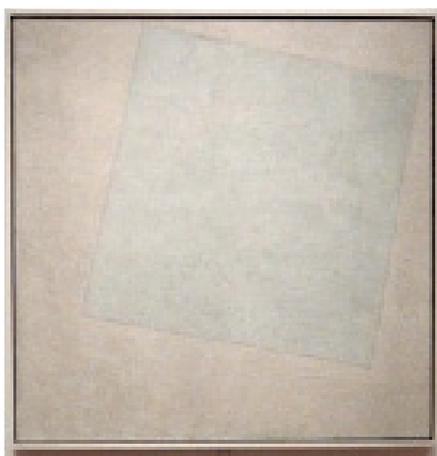


モンドリアン「コンポジション」

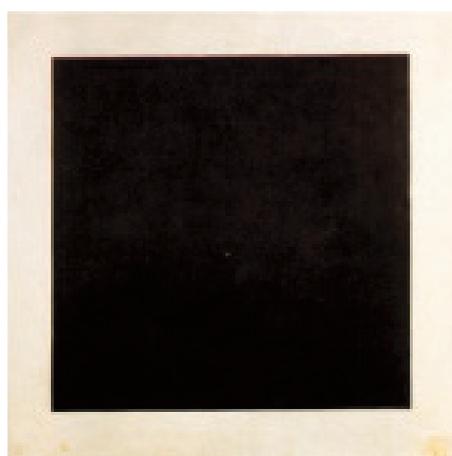


イヴ・サンローラン「モンドリアン・ルック」
展覧会で展示されていたものを撮影。

【釈文】 正道直行
【出典】 論語・謝霊公篇
【サイズ】 96×96cm



マレーヴィチ「白の上の白の正方形」



マレーヴィチ「黒の正方形」



正道
直行

96 × 96cm